

春には北斗七星

昇りくる北斗七星

春の宵（よい）の空には北東の空に高く昇りつつある北斗七星が見られます。

7個の星の配列が、ひしゃくに似ていることから「ひしゃくぼし」として日本では親しまれてきましたが、現在の日本では、道具としてのひしゃくをあまり見かけなくなりました。

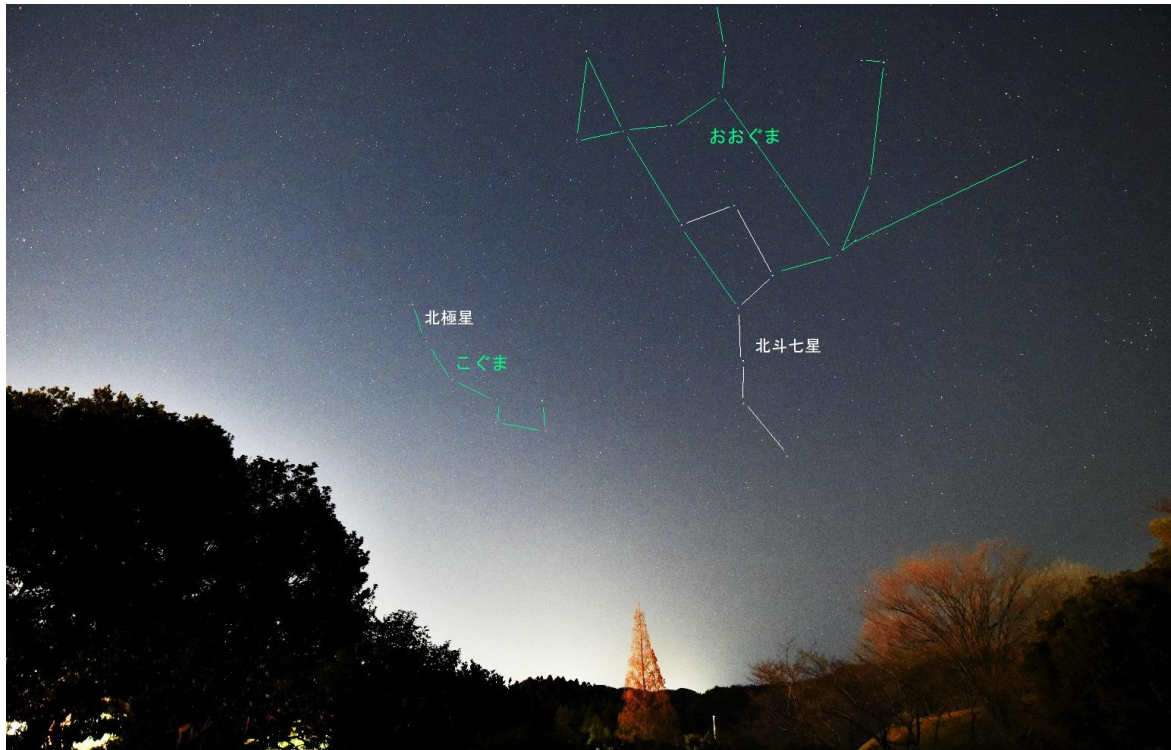
今では神社で手や口を清める場所に置いていますが、それ以外のところではあまり見かけないですね。

それでも北斗七星は、6個の2等星と1個の3等星からなる比較的明るく見つけやすい星の配列なため、人々の間では広く親しまれています。

ところが現在、全天の88星座に北斗七星は入っていません。

それはどういうことかというと、西洋の星座から、全天を88の区画に分割している現在の星座の定義では、北斗七星はおおぐま座の一部に属しているのです。

先月、撮影した写真に線や文字を入れて、そのことがわかるようにしてみましたので、ご覧ください。



夜空に向けて北の方角を撮影した写真に星座の線などを書き込みました

この写真を見ると、たちどころに分かりますが、大きなクマの姿の中に北斗七星が取り込まれており、北斗のひしゃくの柄の部分長いしっぽに位置することがわかります。

ちなみに、おおぐま座もこぐま座も本物のクマの姿よりもしっぽが長くなっているのは、天の神様が空に放り投げた際にしっぽを持って投げたので、伸びてしまったというお話になっています。

ぜひ、本物の空で、北斗七星やおおぐま、こぐま座を見つけましょう。

夕空に金星が見えるようになりました

先月のコラムで紹介した宵の明星こと金星が夕方の西の空に明るく輝いて見えるようになりました。先月の様子を撮影しましたので写真を掲載しますが、西の空に明るく輝いています。ぜひみつけて見ましょう。



3月には金星と共に水星も見られました（3月17日撮影）

4月の星空

4月の星空は、3月までは夕方の空に見られた冬の星座が西の空に沈んでいき、午後9時頃には春の星座が全天を覆うようになります。

北の空には、北斗七星のあるおおぐま座とこぐま座が見られ、北斗七星のひしゃくの柄の部分から目を南方向に向けると、うしかい座の1等星アルクトゥールズをみつけることができます。さらに南にたどっていくと、おとめ座のスピカにたどり着くことができます。

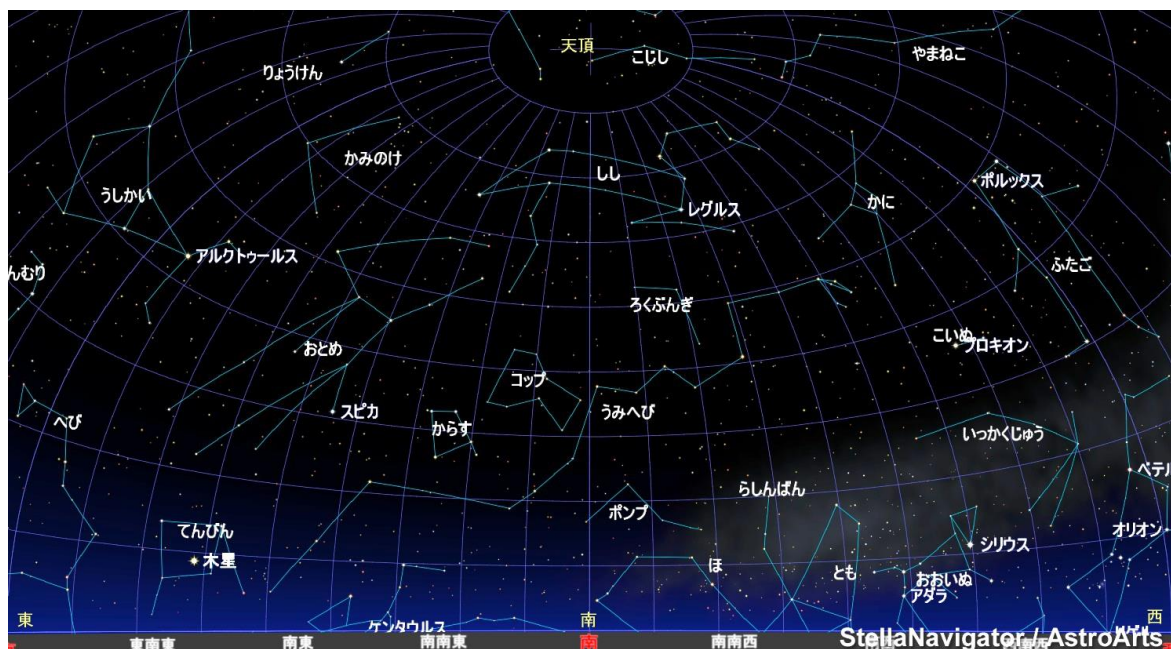
北斗七星からスピカまでのたどった軌跡を春の大曲線といいますが、星に親しんで春の大曲線や星座をみつけることができるようにぜひ、チャレンジしてみてください。

4月の天文情報

日	曜日	月齢	天文現象など
1	日	14.6	
2	月	15.6	火星と土星が最接近
3	火	16.6	月と木星が接近
4	水	17.6	
5	木	18.6	清明（二十四節気）
6	金	19.6	
7	土	20.6	月の赤緯が最南
8	日	21.6	下弦の月 月と火星、土星が接近 月の距離が最遠
9	月	22.6	
10	火	23.6	

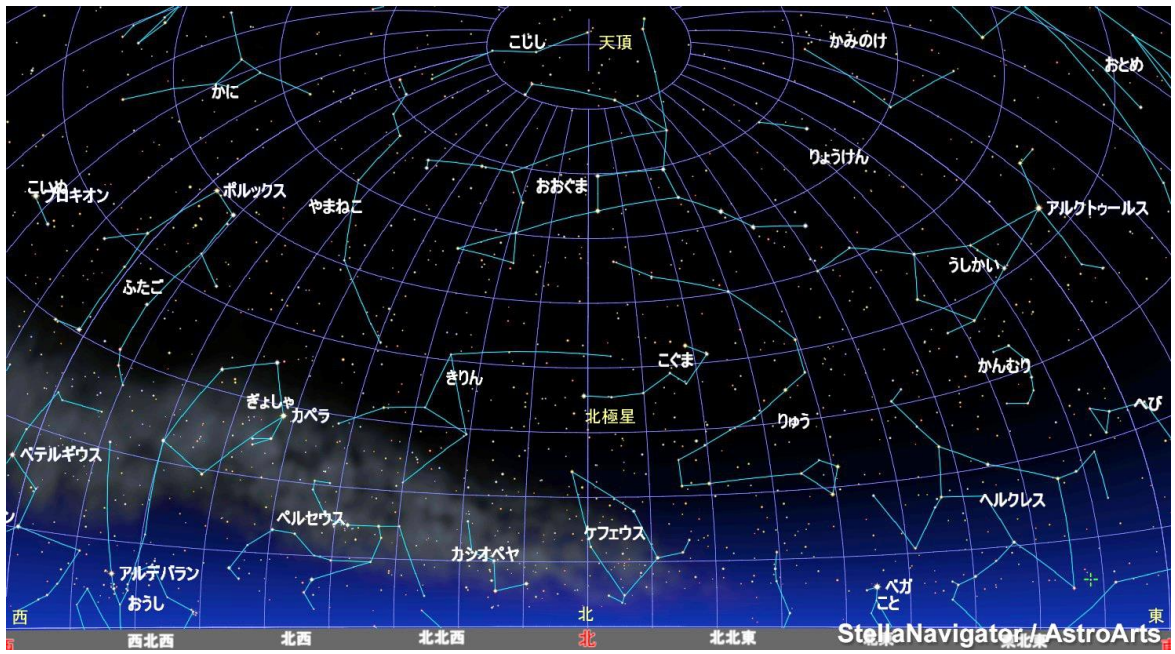
11	水	24.6	
12	木	25.6	
13	金	26.6	
14	土	27.6	
15	日	28.6	月が天の赤道を通過（北半球へ）
16	月	0.0	新月
17	火	1.0	
18	水	2.0	
19	木	3.0	
20	金	4.0	穀雨（二十四節気） 月の距離が最近
21	土	5.0	月の赤緯が最北
22	日	6.0	
23	月	7.0	上弦の月
24	火	8.0	
25	水	9.0	
26	木	10.0	
27	金	11.0	
28	土	12.0	月が天の赤道を通過（南半球へ）
29	日	13.0	昭和の日
30	月	14.0	振替休日 満月 水星が西方最大離角

4月の星空（星図）



南の星空

4月の中旬、午後9時ころの星空です。南の空と北の空の星図を掲げておきます。観察する位置によって使い分けましょう。月明かりの影響はカットし、月の姿も表現していません。このコラムの中で使用する星図は、(株)アストロアーツの許諾を受け、天文ソフト「ステラナビゲータ10」を使用しています。



北の星空